

質問

天慶の乱について 平将門・藤原純友の乱の呼称がどのように変化してきたのか、解説してください。

【回答者】寺内 浩

承平天慶の乱から天慶の乱へ

一〇世紀前半に起きた平将門・藤原純友の乱（以下では将門純友の乱とする）は、時の年号をとって承平天慶の乱とも呼ばれる。しかし、将門純友の乱の研究が進んだことにより、近年は天慶の乱とされることが多くなった。こうした結果、教科書の記述も変わり、たとえば山川出版社の平成二九年年度用教科書『詳説日本史 改訂版』（日B三〇九）では、これまで「東西の反乱（あわせて承平・天慶の乱と呼ばれる）は……」だったのが、「東西の反乱（あわせて天慶の乱と呼ばれる）は……」に改訂されている。以下では、年号を用いた将門純友の乱の呼称がどのように変化してきたのか、またそれはなぜなのかを考えていくことにする。

将門純友の乱が承平天慶の乱ではなく天慶の乱と呼ばれるよ

うになったのは、将門と純友が反乱を起こしたのは承平年間（九三一―九三八）ではなく天慶年間（九三八―九四七）であることがわかったためである。このうち将門の乱については、承平年間は一族間の内紛であったが、天慶二年の常陸国庁襲撃以降国家への反乱となったことは以前から知られていた。見方が大きく変わったのは純友の乱の方である。承平年間の純友に関する四つの史料の読み下し文を以下に掲げる。

（ア）『日本紀略』承平六年六月条

南海賊徒の首藤原純友、党を結んで伊予国日振島に屯聚し、千余艘を設け、官物私財を抄劫す。

（イ）『扶桑略記』承平六年六月条

南海道の賊船千余艘、海上に浮かび、官物を強取し、人命を殺害す。

（ウ）『本朝世紀』天慶二年二月二一日条

今日、伊予国解状を進む。前據藤原純友、去る承平六年、海賊を追捕すべき由、宣旨を蒙る。

（エ）『吏部王記』承平六年三月某日条

是日、伊与前據藤原純共、友党を聚め伊予に向かふ。河尻の掠内に留連す。

かつては、（ア）『日本紀略』承平六年六月条に「南海賊徒の

首藤原純友」とあることから、承平年間から純友は海賊の首領

であったという理解が一般的であった。ところが、(イ)『扶桑略記』には純友はみえず、(ウ)『本朝世紀』によると純友は承平六年に海賊追捕の宣旨を受けていたのである。さらに、(エ)『吏部王記』(重明親王の日記)には、純友が承平六年三月に京から伊予に向かったとある。こうしたことから、(ア)『日本紀略』が純友を海賊の首領とするのは後の知識によるものであり、承平六年の純友は海賊の首領ではなく、むしろ海賊を討伐する側にいたことが明らかになってきたのである。

このように、承平年間の純友は海賊の討伐にあたり、将門も平氏一族の内紛にあげられ、両者は決して国家への反乱を起こしていなかった。将門と純友が反乱に起ち上がったのは天慶年間になってからのことであった。故に、乱の呼称も承平天慶の乱ではなく天慶の乱が用いられるようになったのである。

天慶の乱から承平天慶の乱へ

近年は天慶の乱が一般的になったことを述べたが、実は江戸時代から明治二〇年代ごろまでは将門純友の乱は天慶の乱と呼ばれていた。平安時代の貴族の日記(『小右記』)や歴史書(『日本紀略』)にも「天慶賊乱」「天慶之大乱」という表現がみられるが、江戸時代になると一般化し、『読史余論』や『日本外史』は将門純友の乱を天慶の乱と称している。江戸時代に天慶の乱

の呼称が使用されたのは、『大日本史』の考証によるところが大きい。『大日本史』は、前掲(ア)『日本紀略』に承平六年の純友は海賊であったとみえるが、(ウ)『本朝世紀』によると純友は承平六年に海賊追捕の宣旨を蒙っているので、承平六年段階では純友はまだ反していない、純友が反したのは天慶二年としているのである。つまり、先ほど近年明らかになったと述べたことは、実は『大日本史』がすでに指摘していたのである。

この『大日本史』の影響は大きく、『読史余論』『日本外史』などの江戸時代の歴史書はもとより、明治二〇年代までの日本史概説書もそのほとんどが将門純友の乱を天慶の乱と呼んでいる。ところが、明治三〇年代になると日本史概説書では承平天慶の乱が多用されるようになる。これは、(ア)『日本紀略』によって承平年間からすでに純友は海賊の頭領であったという論調が強まる一方、(ウ)『本朝世紀』には触れられなくなったためである。つまり、このころから学界では、承平年間から純友は日振島を根拠地として瀬戸内海で海賊行為をはたらいており、それが天慶年間まで続くと考えられるようになったのである。その結果、承平年間と天慶年間とが連続的にとらえられ、乱の呼称は承平天慶の乱となり、それが戦後まで続くのである。

次に、日本史教科書における乱の呼称の変遷について述べておく。明治時代初期の小学校ではさまざまな種類の教科書が用

いられたが、将門純友の乱の呼称は天慶の乱とするものが多い。その後、一八八一年に小学校教則綱領が制定され、一八八六年からは教科書検定制度が始まった。翌年に文部省は歴史教科書の編集方針を定めた歴史教科書編纂旨意書をつくるが、その目次の第四編細目には「天慶ノ乱」とある。その結果、小学校教科書では乱の呼称は天慶の乱でほぼ統一される。小学校は一九〇三年から国定教科書になるが、そこでの乱の呼称も天慶の乱であり、昭和戦前期まで続く。

中学校は、一八八六年の中学校令により五年生の尋常中学校ができ、同年から教科書は検定制となり、さまざまな教科書がつけられるが、そのほとんどが乱の呼称を天慶の乱としている。ところが、中学校の各学科目の詳細を示した一九〇二年の中学校教授要目では「承平天慶ノ乱」とされている。これは先述した当時の学界状況を反映したものである。この中学校教授要目以降、中学校教科書の多くは承平天慶の乱となる。一九四三年には中学校も国定教科書となるが、そこでの呼称も承平天慶の乱である。

戦後の教科書を調べてみると、高校教科書では年号を用いた乱の呼称はほとんどが承平天慶の乱である。中学校教科書は将門や純友が乱を起こしたことに触れるのみで、年号を用いた乱の呼称はほとんどみられない。

再び天慶の乱へ

最後に、本稿で述べたことをまとめておく。江戸時代以降明治二〇年代までは、歴史書や日本史概説書の多くは将門純友の乱を天慶の乱と呼んでいた。ところが、明治三〇年代ごろより承平年間からすでに純友は海賊の首領であったという論調が強まり、乱の呼称は承平天慶の乱となる。教科書は、小学校・中学校ともに当初は乱の呼称を天慶の乱としていたが、明治時代後期から小学校は天慶の乱、中学校は承平天慶の乱となり、小学校と中学校で呼称が異なっていた。戦後になると高校教科書の呼称は承平天慶の乱でほぼ統一される。そして近年は再び将門と純友が反乱を起こしたのは天慶年間になってからとされ、乱の呼称は承平天慶の乱から天慶の乱に変わってきているのである。

承平天慶の乱とするか、天慶の乱とするかは、一見些細なこととみえるかもしれない。しかし、戦乱や政変の呼称はその内容・過程をどのように理解するかという問題と密接に係る。古代史の分野では、「薬子の変」を「平城太上天皇の変」と呼ぶようになったことは記憶に新しい。歴史用語は研究の推移とともに変化していくのである。

主要参考文献

寺内浩「天慶の乱と承平天慶の乱」一・二（愛媛大学法文学部論集）人文学科編三四・三五、二〇一三年
（てらうち・ひろし／愛媛大学教授）

日本史・世界史 正誤問題データ集

先生用
(Windows版 CD-ROM)

2016年までの過去7～8年分の大学入試で出題された正誤問題を集めて収録。様々な条件での抽出はもちろん、『詳説日本史 改訂版』（日 B309）・『詳説世界史 改訂版』（世 B310）の章・節からの抽出やキーワードでの検索も可能。

日本史正誤問題データ集
商品番号:86-069 本体:25,000円(税別)

世界史正誤問題データ集
商品番号:86-070 本体:25,000円(税別)

